

夏休み特別版！まちの歴史を知ろう

まちのたから

発見

佐久良の名将

おぐら さ こんのしょうげん さねずみ
小倉左近将監實澄



小倉實澄像（仲明寺蔵）

● 日野の武将といえは

日野の武将と言えは、皆さんは誰を思い浮かべますか。

多くの人は、蒲生氏郷に代表される蒲生氏の誰かの名前を挙げられると思います。

しかし、日野では蒲生氏以外にも多くの武将が活躍しており、中には幕府や朝廷にまで、その名が知られている人物もいました。今回はその代表的な武将の一人である小倉實澄（1439生〜1505没）を紹介します。

● 小倉氏とは

小倉氏は、愛智郡小椋（愛荘町）

を領地とした事から、小倉（小椋）を名乗り始めたと言われる武士です。やがて、一族が分かれながら領地を増やし、實澄が活躍した室町時代中期には、本拠地を佐久良に移したと伝えられます。

● 小倉實澄の活躍

實澄が最も活躍したのは、今からおよそ545年前、応仁元年（1467）に起こった応仁の乱の時期でした。そのころ實澄は、飛騨（岐阜県北部）、出雲・隠岐（島根県）の三か国を領地に持ち、室町幕府の中で軍事を握る要職にいた京極持清という大名の家臣となつて

いました。

当時、京極家は幕府が支持する東軍に属しており、實澄も京極勢として近江（滋賀県）各地や京都で戦いを繰り返していました。

この時、永源寺の八尾城を軍事拠点としていた實澄は、京都から避難して来た著名な学僧たちを手厚く庇護し、彼らのために永源寺に識廬庵という寺院を建立しました。そして、この識廬庵や佐久良城において歌会などを開き、彼らとの交流により、自らの教養を高めたのでした。

● 応仁の乱のあと

文明元年（1469）、京極持清は、近江守護にも就任して絶大な権力を持ちますが、翌年、突如病気で亡くなってしまいました。すると京極家では後継者をめぐる内紛が起り、持清以前に代々近江守護であった六角氏の反抗を招くこととなりました。各地で戦が行われ、桜谷でも八丁原（原地区一帯）における合戦によって、万徳寺が焼失したことが記録に残ります。

当時、小倉一族の中にも、六角氏の家臣として行動する者が現れる中、實澄は永正2年（1505）に亡くなるまで京極家に仕え続けました。

● 今に伝えられる實澄の足跡

實澄は識廬庵で亡くなり、現在も永源寺ダムにほど近い場所に墓所が残りますが、佐久良の仲明寺にも實澄の墓石と伝えられる宝篋印塔が伝えられています。この仲明寺は、蒲生家から養子として入った實隆（蒲生定秀三男）が、實澄を弔うために建立した寺院です。實隆自身は永禄7年（1564）に永源寺の和南合戦で亡くなりますが、当時、小倉氏の本城として使われたと考えられる佐久良城には、現在でも良好な遺構を見ることが出来ます。



▲小倉氏三代の墓（仲明寺）